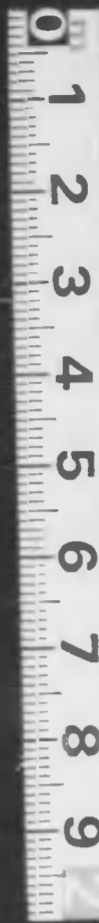


情 報 局 編 輯

四月廿一日 第二六八號

寫 眞
週 報





慰問文や慰問文も郵送以外に、機会をつくってはその都度送る。慰問文は隣組中が筆紙に寄せ書をする。これは一家全員の執筆だから老若男女の思いがむき出しになつてゐる。



ごく些細な額ですが、兵隊さんに感謝を捧げる全町会員の熱意なのでと謙遜しながら川村榮子さんは、この町会専用の「兵隊貯金」について語つた
この貯金は昭和十五年から始めましたが、一世帯から毎月十銭づつ贈金し、その総額は町会出身〇名の出征兵の各個人名で貯金します。そして出征兵が復讐した際には、この貯金通帳を町会から本人にお返しとして差し上げます。また陣々の武勳とともに國家に殉じた場合は、この遺族にこの通帳は贈ります。



水下山、川村さんの隣組一行は櫻井花岡と咲き匂ふ九段味國の社頭に顔つき、皇軍將兵の武運長久と陸軍將兵の實績を祈つた

醜の御福として己れを空しうし一身一家を無にして戦ふ皇軍將兵のあるところ、銃後はまたこの前線勇士の遺忠報國の精神に應へるに軍人接護の至誠を以てする。この願はしくも温かな氣持で結ばれる前線銃後の繋りこそ、日本の特質であり強味である
大東亞戦争の進展とともに最後の勝利をめざす皇軍將兵は後顧の憂ひ全くなく、益々士氣旺盛に、世界無比の精銳なる力を縦横に發揮し、南に北に、華々の戦果を擧げてゐる
この秋、われわれ銃後國民は大御心を奉獻し、前線將兵の奮闘努力を慰び、いよゝ軍人接護精神を昂揚して銃後の護りを固くし、如何に戦ひが長期に亘らうとも、眞に前線銃後が一體となつて、大東亞戦争の完遂を期さねばならぬ
英傑輩のうちには春の靖國神社臨時大祭並びに例祭が舉行されるが、丁度この期間にかけて四月二十三日から二十九日の一週間に亘つて展開される軍人接護精神昂揚運動に、今こそわれわれ國民の一人々々が身を以て軍人接護の至誠に徹し、戦勝の彼岸に突入することを新たに英靈に誓はう

東京市葛飾區新堀五丁目町会は軍人接護に関する模範町会として軍事保護院から表彰されたが、この町会は水下山之助町会長を陣頭に全町会員が打つて一丸となり、各隣組單位に軍人接護に不斷の努力を続け、銃後をがっちりとして護つてゐる
「お！全く思ひがけませんでしたよ。戦地に在る間はさんく慰問袋や慰問文を戴いておたのに、復讐してみると、またこの貯金通帳を買ひましてね。この貯金通帳は私一生のよい記念です。その後でいたが、戴いた通帳を土蔵に貯金を繼續してあります。かうすることが隣組や町会への御恩返しでもあり、銃後の務めと思つておます。兵隊貯金の通帳を手にして昨年の當時を回想するのは組内の高橋さんです」

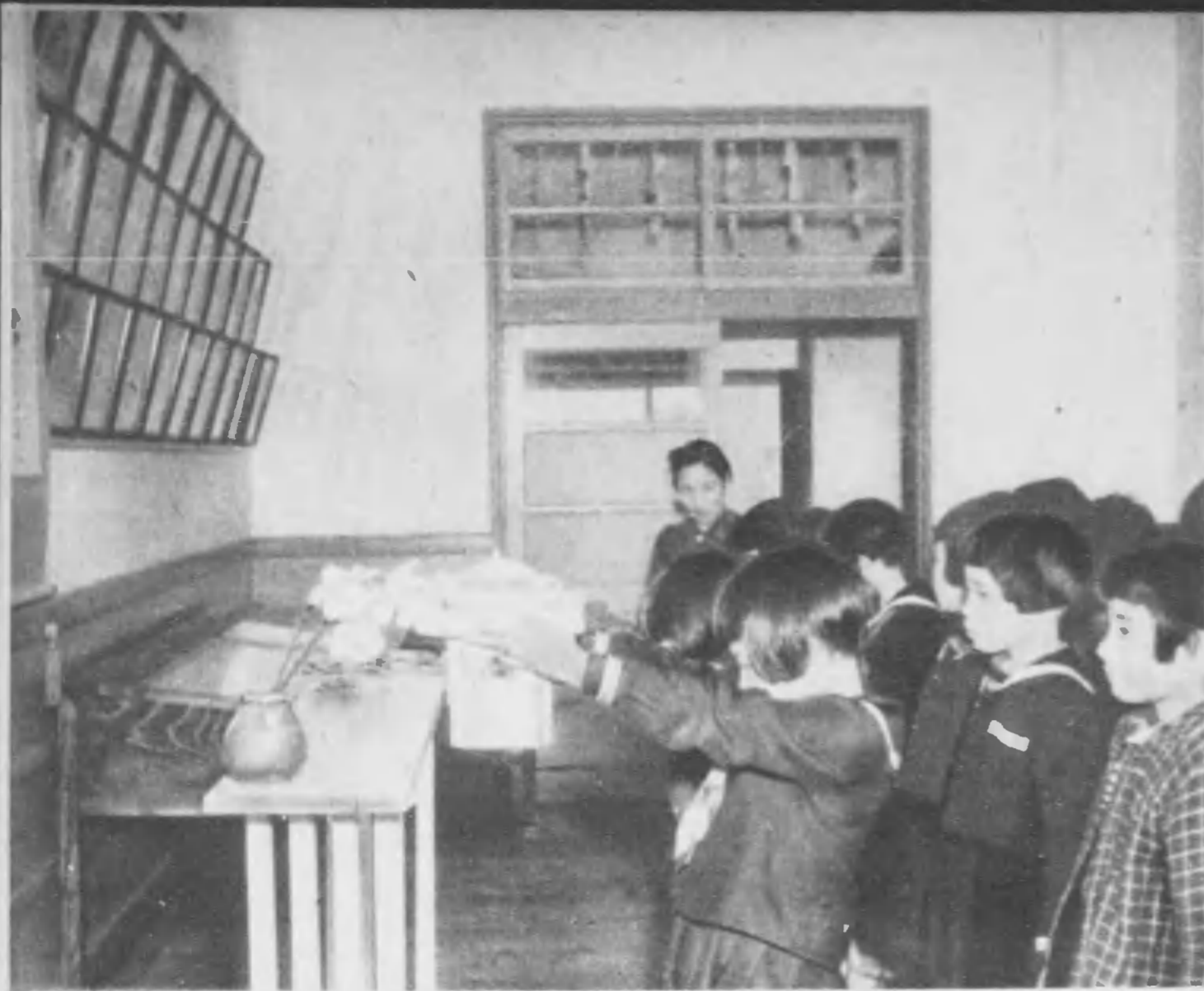


大詔奉讀日の午後、春雨に煙る中を隣組員は組内の遺族を訪問し、前に華花を捧げた。故中島中尉宅を訪れた一行は花束を手に懇ろに木下人を慰めた



慰問されるからといって、遺族は甘えてゐない。中島中尉未亡人は亡き大遺家のライカカメラで、けふも出征兵總代さんの留守宅を訪ね「御両親は健在です」と前線慰問用の寫眞撮影の奉仕をする





各町会の少年團員が日々交代で、また大詔奉戴日には早朝全員で、出征家族、遺族に奉仕する

毎週二、三回高等科の生徒は、出征家族の幼いお友達や遺児を集めて、先生の指導のもとに遊び、正に心にしみる活きた勉強だ！

↑ 敏友のお父さんや兄さんが戦死された命日には、子供たちが家庭から儲かづつ持ちよつた御饗米を靈前に供へ、始業前、拜禮する。御下げした御饗米は、またその遺族の御病前に供へる

軍人援護 國民學校

校學民國 田太縣城茨



↑ 今日はお饗米の日、大切に持つて行くので「お饗米」

↑ 三日に一度つづ放課後、郷土新聞の發送、拜禮をこなへて、郵便不足にならないやう、宛名をはずり書きなど、活きた勉強もする



子供にもよく分るやうに、傷痍軍人徽章を擴大し、大模範が全部の教室に掲げてある。今日は一年生に徽章についての説明がされる



↑ 今日はお饗米の日、大切に持つて行くので「お饗米」

軍人援護は國民學校教育において、何か特別なものであつてはならないと思ひます。茨城縣久慈郡太田國民學校の鈴木校長は語る。即ち軍人援護は國民學校の教育と渾然一體となり、更にいへば軍人援護教育が國民學校教育の基礎となつて始めて國民の健康は完成を期し得ると思ふ、かういふのである。この趣旨に則り、今春軍事保護院から軍人援護教育の模範校として表彰された太田國民學校の軍人援護教育は、行き届いたものである。先づ聖旨の奉戴と實踐が眼目であるが、宣戰の大詔と軍人援護に關する勅語を随時奉讀、謹寫し、また軍人援護によせられた御製、御歌をそれ／＼月別に始業前奉唱してゐる。なほ全教科を通じて援護教育の徹底を期するため、軍人援護教育教授細目ができてゐて、國語、國史などの國民科ばかりでなく、理數科にまで援護精神を感ずるやうになつてゐる。授業にあつては映畫、紙芝居等も利用され、紙芝居は教師と児童の協力によつて造られる。しかも、學校内に郷土の英雄を奉祀する忠靈堂に御供へする献納作品、慰問文、児童が作る慰問新聞、さらに工作成績品の外それぞれ工夫をこらした慰問品作成などに全科目の綜合成績を發揮させるやうになつてゐる。その外、前線將兵に對する慰問、出征家族や遺族及び傷痍軍人に對する援護施設、または他の援護團體との連絡などと、一々あげきれないほどの周到さである。鈴木校長はまた語る。『大人にとつては、軍人援護がどうしても特別なこと、特別な行爲となりがちです。ところが子供はそれに浸りきり、奉仕も、させていたゞく気分になつてゐます。長い間遺族の風呂の水汲みを黙つて続けるもの、出征家族である焼いもやさんのいも洗ひをしてゐるもの。またこんな話があります。數日前、通りで、私の前を歩いてゐる子供が時々立止つては、ある家に向ひ敬禮します。私は最初變なことをする子だと思つておましたが、最後に最近戦死された海軍軍人の家に向つて子供が敬禮するのを見て、私は胸を衝かれました。かくて、校長を先頭に全教員が心をこめた援護教育は児童の清純な魂にふれ、知、行を通じて國民としての玲瓏な資質となり、美しく成長してゆくのだ。

自力再起の傷兵工場

神奈川県平塚市



脚は不自由でも工場が近く近くに明るい社宅がある。妻と子に送られて今日も元気で御出立だ

右腕のない人、左腕のない人、両脚と右腕を失った筒井朝市君は、再建の決心に心眼を見開き、愛妻と共にこの工場で旋盤工として働いてるが、夜は愛妻から断字を教わり、文字の世界にふみ込み、と努めてる



傷病の勇士の健康のために、冬暖かく夏涼しいこの場所が工場の敷地として選ばれたのだ。櫻花もよそに咲いて勇士を慰めた



従業員の保健と趣味と、そして増産の一石二鳥を狙って工場の近くには農場がある。片手の勇士も小器用に鋤を握るつて手を揃え、大根を作つてゐる



両眼を失つた筒井朝市君は、愛妻の介助で、この工場に再建の決心を固めてゐる

戦さの場でその手と腕を失つた筒井朝市君は、その場で自力再起の決心を固めてゐる。筒井朝市君は、戦さの場でその手と腕を失つた筒井朝市君は、その場で自力再起の決心を固めてゐる。筒井朝市君は、戦さの場でその手と腕を失つた筒井朝市君は、その場で自力再起の決心を固めてゐる。



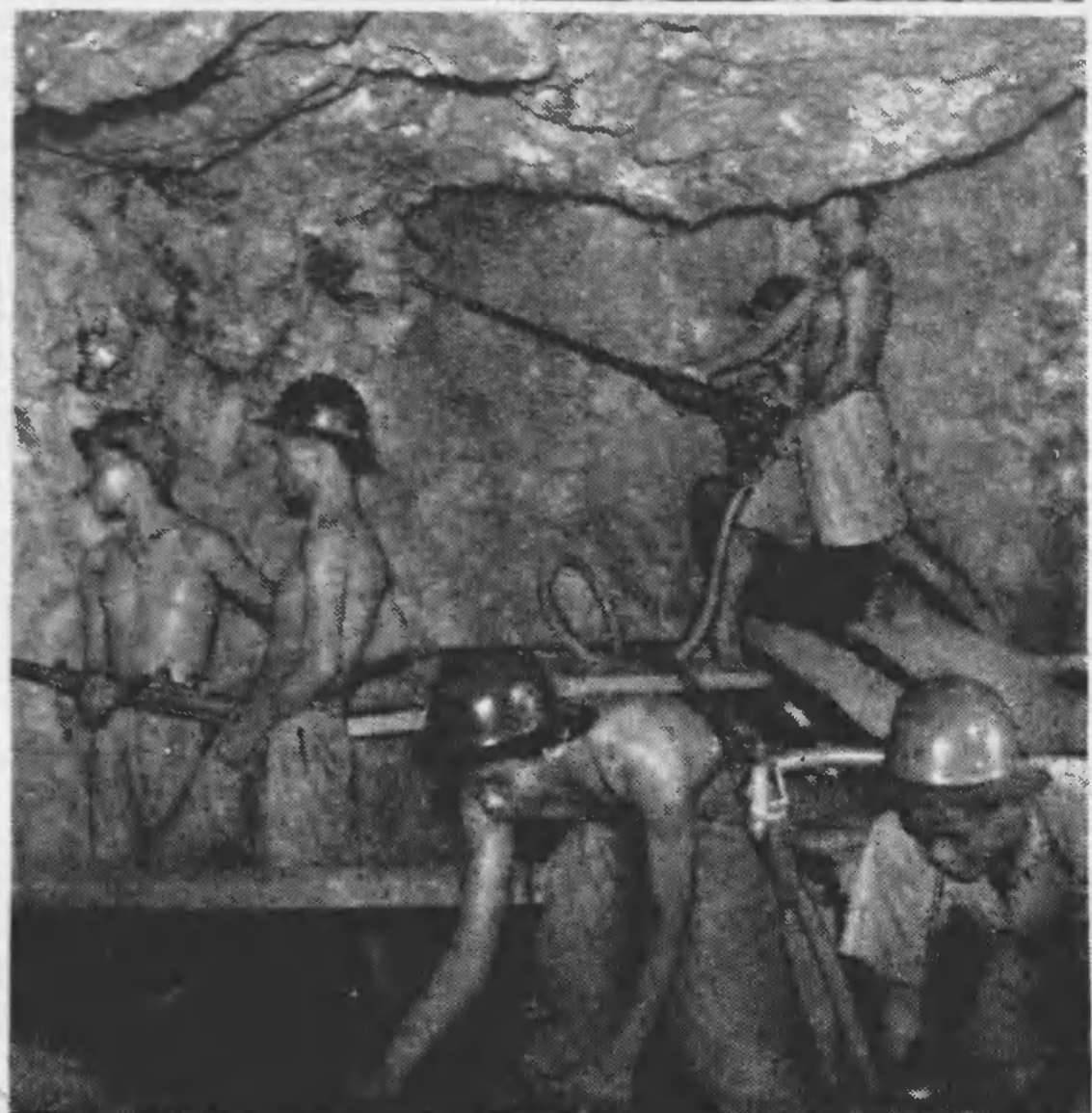


生産遅く 戦く比島の銅山

戦後の銅産を担うと見られていた比島銅山の生産は、戦後一掃が断念してからやがて一年、對日協力の態勢は着々光復してきているが、戦時中に行われた銅山の動力として銅、錫、マンガン、クロムなどの地下埋蔵立地の調査には、軍式一政、戦時中の生産の増進に著しい進歩を見ている。ことに銅産地は、品質の良しと埋蔵量の豊富であるが、戦時中、比島内唯一の生産地であるだけに、その開発に、一掃と力点が置かれていた。現在では、ルソン島北東部のマンカン銅山をはじめとして、南部のラマ、マニラ島のアンチケ銅山、その建設が銅山の銅山を中心として、日本から運ばれた、また、比島の指針の下に、たかま、い、生産戦をつづけてある。マンカン銅山は、敵がグイナイドをもつて採掘器材を徹底的に破壊し、去つてみたが、自軍占領と同時に復元されたが、比島銅山と東との血の争い協力として、見事生産を再開、自軍治安下、労働を忘れた比島の地下戦士も内地の戦士と呼んで、生産戦の大きな役割を果たしている。



比島銅山の生産は、戦後一掃が断念してからやがて一年、對日協力の態勢は着々光復してきているが、戦時中に行われた銅山の動力として銅、錫、マンガン、クロムなどの地下埋蔵立地の調査には、軍式一政、戦時中の生産の増進に著しい進歩を見ている。ことに銅産地は、品質の良しと埋蔵量の豊富であるが、戦時中、比島内唯一の生産地であるだけに、その開発に、一掃と力点が置かれていた。現在では、ルソン島北東部のマンカン銅山をはじめとして、南部のラマ、マニラ島のアンチケ銅山、その建設が銅山の銅山を中心として、日本から運ばれた、また、比島の指針の下に、たかま、い、生産戦をつづけてある。マンカン銅山は、敵がグイナイドをもつて採掘器材を徹底的に破壊し、去つてみたが、自軍占領と同時に復元されたが、比島銅山と東との血の争い協力として、見事生産を再開、自軍治安下、労働を忘れた比島の地下戦士も内地の戦士と呼んで、生産戦の大きな役割を果たしている。



昭南の育つマライでも

昭南特別市普通公學校

日本の櫻が咲きはじめの頃から、昭南ではながい夏の季節がはじまります。墨ずむやうな南の空の下で、マライの子供たちはどんな暮らし方をしているのでしょうか。何んといつても一番変わったのは学校です。小さな子供たちには難かしい理窟は分かりません。けれども、シンガポールが昭南になつて、日本の先生が来てから、子供たちの気持は明るい光を帯びやうになりました。身体を丈夫にすること、勉強すること、遊ぶこと——いままて知らされなかつたこれらすべてが、今日では子供たちの生活をいつばいにしてゐるのでよ……

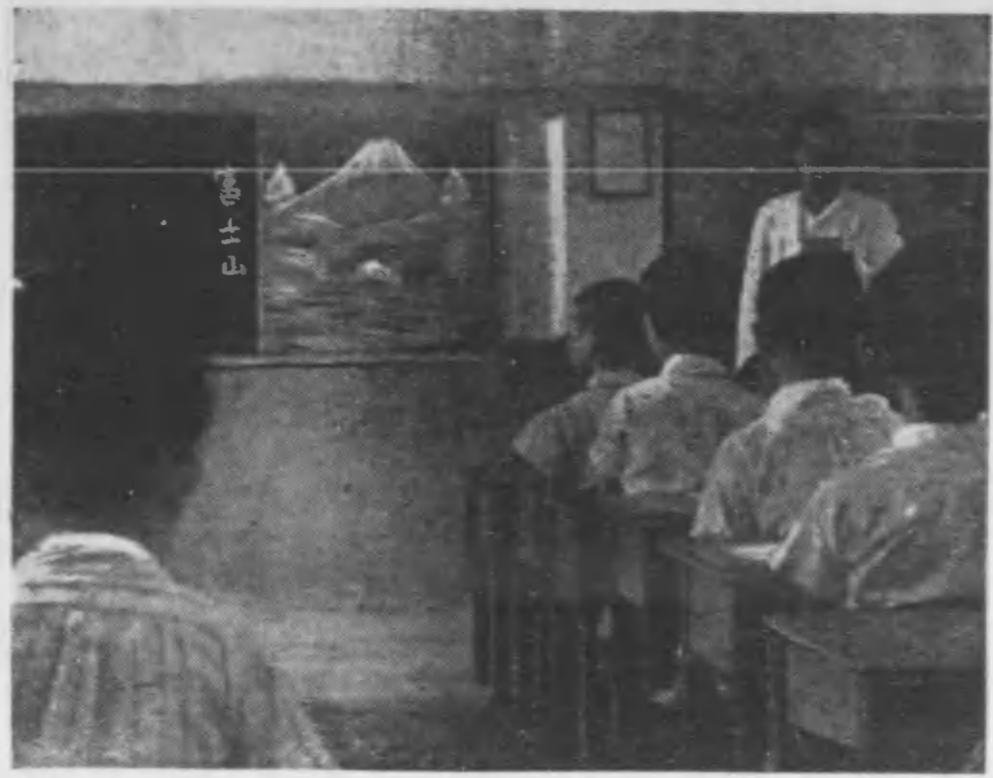
先生が黒板にフジサンを描きました。雲の積つてゐる遠い山へ子供たちの心は飛んでゆきます

工作の時間です。もうちよつとだ、顔に汗をかいて、立派な軍艦がもう一息

こゝてかうとめるのよ。女の子は女らしくけいひのおけいこです

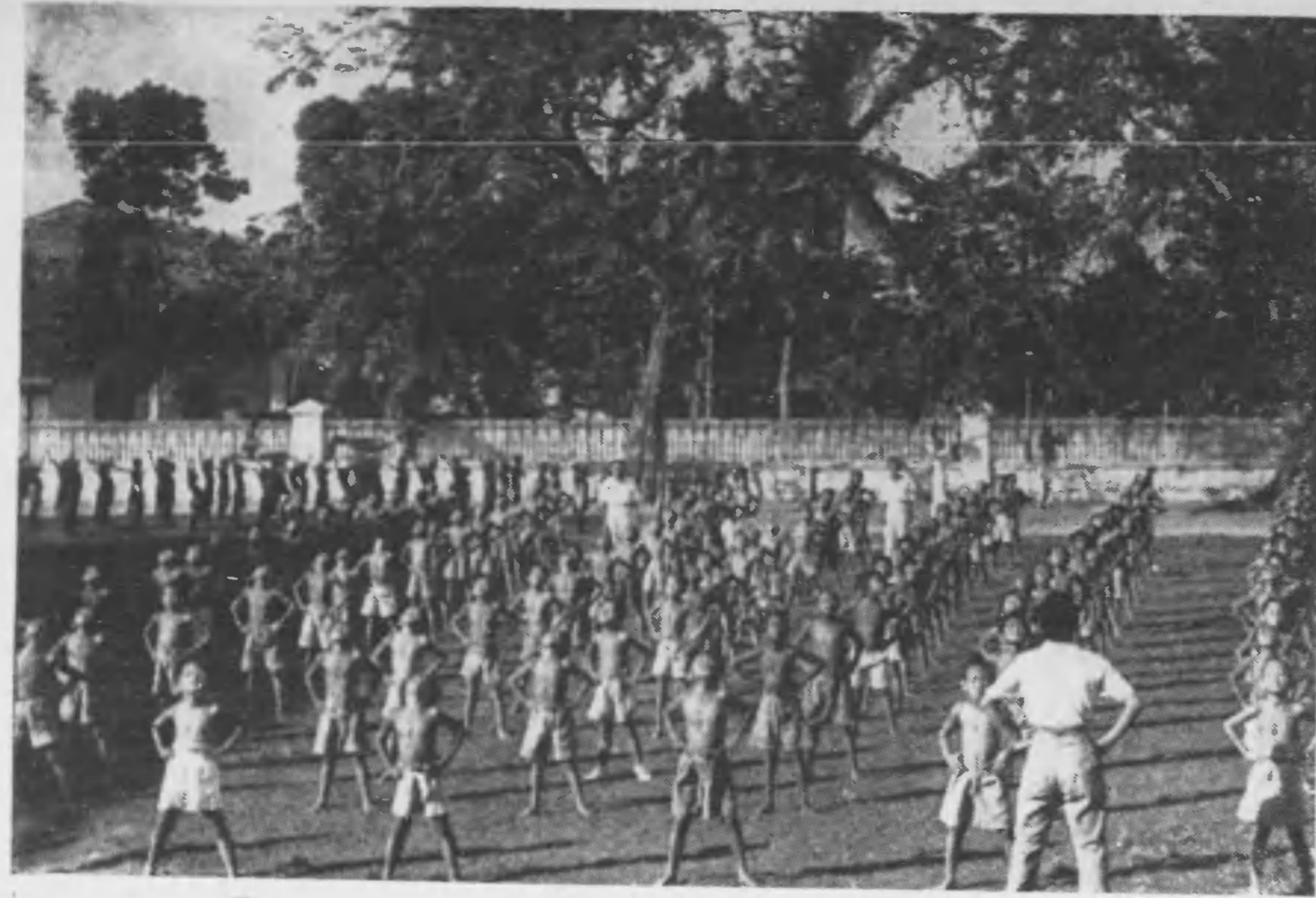


森中洋軍報道員
昭南の國民學校です。もう子供たちが元氣よくとひこんでゆきます



朝禮、體操、日本のみなさんと同じでせう。いまにもつと肥りますよ

足なみはそろひました。ケエレイ、兵隊さんとはずにつこり……





愛馬の日の
帝都
日七月四

七日の愛馬の日
東京には、早
六愛馬の日、
本近運の鞍馬、
四十日は、各
と積み込んで
隊伍をととの
出たが、沿
まへた人々の
に、愛馬の日
なると、大
大



雪
よ早く消えよ
増産へ消費作業に
挺身の男女学生

—新潟県—

北陸地方では、新しい春の雪が
増産への激しい意気込みを未だ数尺
に上る積雪が妨げてゐる。だが、種
種は雪が消えてからでは、決戦
下皇國農民の任務は遂げられない。
そこで増産への挺身は、まづ積雪と
の戦いから始まる

新潟県では例年大餘の積雪になや
まされてきたが、今年こそこの白魔
を一日も早く退散させて、増産には
一番大切な早時きを實行しよう、
縣下中等學校、國民學校の生徒、兒
童を總動員して大がかりな人工消雪
作業を展開した

深い雪を掘つて土砂を取り、また
適當な土取り場がないと、遠くの町
から石炭殻を運び、川底の砂をとつ
て、これを田畑の上にならばら撒
く。黒いものは熱を吸収するから、
これを撒いたところは一週間か十日
は雪どけが早い。作業はこれだけだ
が、まだ春風とは名ばかりの寒風に
さらされながら重い籠を押し、馴れ
ぬスコップをふるふ、その苦勞は並
大抵ではない。だが、米の一割増収
を確保し、麥を雪腐病から防ぎ、馬
鈴薯の増産を促進するなど、消費作
業が増産に受持つ役割を知つた生徒
たちの頑張り方は物凄いのだつた
撮影 吉田 榮
寫眞は白鉢巻も強々しい消費作業に奉
仕する女學生

明くるは戦 (五) 眞週報村役場を訪ねる

村は早起きだ。吏員さんの仕事も必ずしも八時や九時の定刻から始まるとは限らない。早晩五時から開かれた部落常会にいろいろな傳達から貯蓄戦の宣傳、さては娯楽に恵まれない人々のために玄人はだしの紙芝居さへもやつてのけるのだ。

面積五方里中三分の二は山林だといふ村に、点在する十三部落。この連絡だけでも大変だといふのに、この役場は村長さん以下十八人だ。だが、毎日辨當を課に吏員さん達ははりきつて登壇する。遠いところは二里も二里半もある自宅から、一寸ハンドルをとりそこねれば興津川の深淵へどぶんと飛びこまないともかきらない九十折の山路を、踏む自転車のペダルも軽く



お米だ、麦だ、お芋だ、薪だ、炭だ、主要食糧や物資の増産に、身を粉にして働きつづけてゐる農村の人々と、いろいろな波紋を描いて押し寄せる戦時生活の波の間にあつて、何かとまごついたり、迷つたりしてゐる純朴な村人達を明るく指導しつづけてゐる村役場の吏員さんと、その指導にたよりきつて粘りつよい農産を増産戦に打ちこんでゐる村人の間には純朴な親和感が明るい雰囲気となつて温かく流れてゐる。

かうした實情が今日全国の農村のありのままの姿だ。だが、その陰には激増する事務と人手不足と取組んで、せつせと働きつづけてゐる吏員さんがある。静岡縣下も山梨縣との境に近い一山村、南河内村の役場を『眞週報』は山路をこえて訪ねてみた。



結婚届だ、出生届だ、納税だ、唯さへ忙しい窓口に、時局は配給といふ忙しい事務を加へた。配給の窓口に入れ代り立ちかはり現はれる村人前に、山積する書類をてきぱきと處理してゆく係の窓口には、爛漫と突き誇る櫻の枝が兎角殺風景な役場を明るく彩つてゐる。幸ひに深く村びとに認識された時局は税金完納となつて現はれ、人手不足も大いに助かつてゐるといふ朗らかな話だ。

けふは乳牛の検査日だ。農會の人達や農協さんと一緒に牛の面倒もみなければならぬ。だが、かうして増産は進められてゆく。河原に群々と集つてくる乳牛の群の間に吏員さんの顔がニコニコとまぢつてゐる。有畜農業に力を入れてゐる農村にとつて、牛は大切な財産なのだ。

戦ふ村々をひときは明るくしてゐるのは保健指導婦さんだ。先生々と慕はれながら、乳幼児や妊産婦の保護に、警察署に、と彼女は懸命に奮闘し続ける。村を、村の人々を少しでも明るくしようと、部落から部落へ、ペダルを踏んでゆく。――あすこの坊やはどうだらう、この病人はどうしたかしら、と不幸な人々のことではつばいな彼女も、ふと見上げる櫻花に明るく微笑むのだ。

召集令状の通達は一瞬も遅れてはならない。兵事係は深夜二里三里の山路に自転車を飛ばせて、任務を果してゆく。お召を受けた人々を激怒しながら――吏員さんの仕事は夜明けから深夜までだ。





にめたの性女す志を工械機

所導補工械機子女舞鶴屋古名

↑爽やかな朝風を胸一杯吸ひ込んで
日課はラジオ体操から始まる

勝つための戦後の戦ひ生産戦へ、着物も化粧もそして甘い夢も投げ捨て、挺身参加するうら若い女性の数も日一日と激増してきた

からした戦ふ女性に機械工としての技術と精神的訓練を施すために、いま東京と名古屋の二ヶ所に女子機械工補導所が設けられ、男子に負けぬ健やかな決意を胸に秘めた女性たちが懸命の訓練を積んでゐる。この補導所に入る資格は満十六歳以上国民学校高等科卒業程度以上、補導期間は三ヶ月で、その間に旋盤、仕上げ、製圖等の技術及び学科を

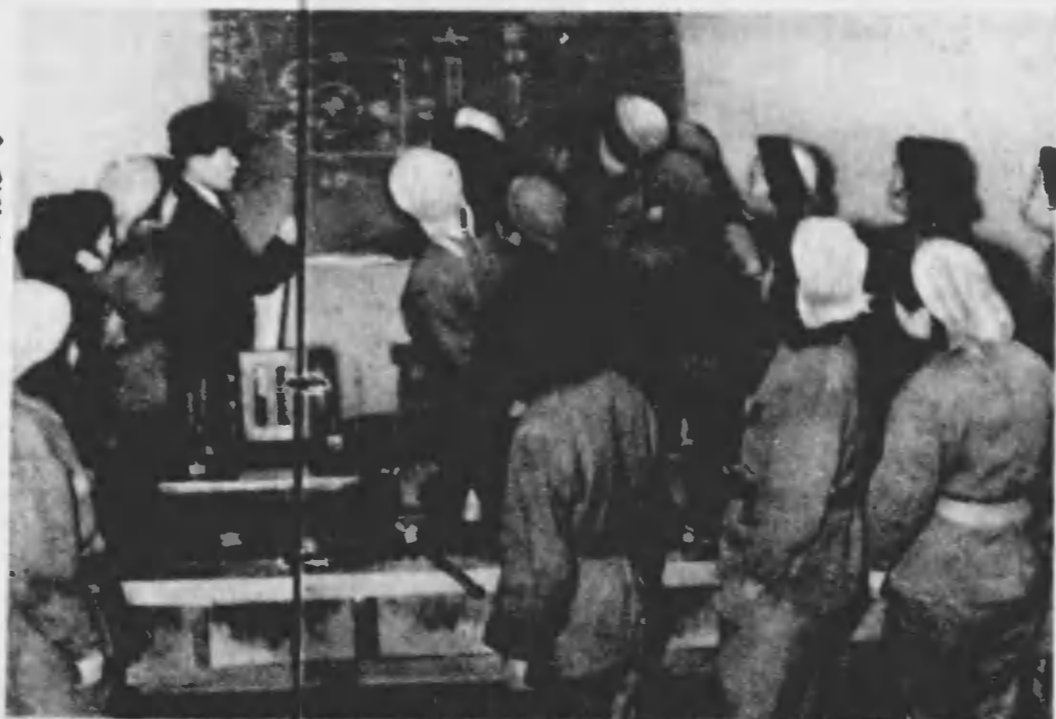


↑旋盤の要ともいふべき
イトの研ぎ方を教はる

撮影 山下 俊男

修得し、機械工としての基礎訓練をうける。中はは臨時、授業料は無料、その上、入所期間中の食費及び通勤のための交通費が支給され、実習道具、教材等は無料で貸與される。志願者は最寄りの国民職業指導所に申込みばよい

なほ東京の補導所は東京市神田区鎌倉町二ノ一神田橋女子機械工補導所、名古屋の補導所は名古屋市中区花田町三ノ十五鶴舞女子機械工補導所である



↑機械工に一日も手離さない工具「ゲージ」の磨きと耳を傾ける

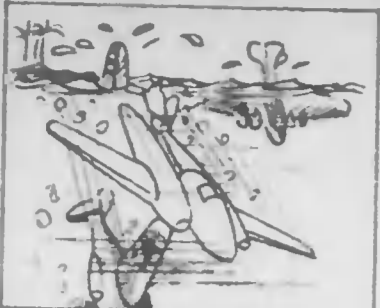
↑正確に旋盤作業ができたかどうか、ゲージで精査度の測り方を教はる



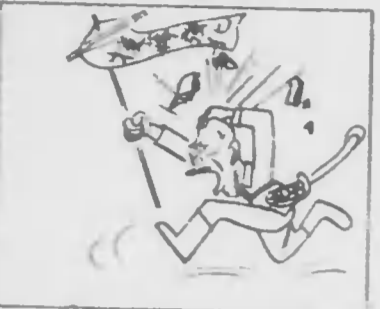
↑ミリング作業の基本訓練——やがて飛行機用機材も私の手に渡されるのだ

↑出来上った工具の精密度を顕微鏡で測つてみる

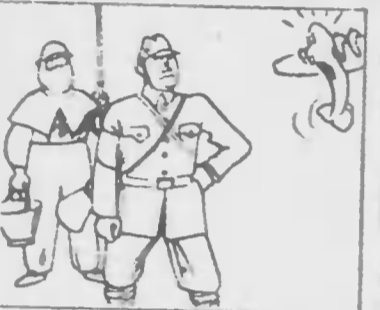




へ既海機七十四敵の島ルセブル



羽の弾巨に響重たつきし断油



し昂氣意の動助呼断絶一



表發果職の中月三龍水落現



に閉上動武の驚怖の驚驚國船



しかた次佐 舊し陸

國陣軍制備が通阿天なりよつた信自に能一響一れそれそ
たしまけか出と乗運出供の難し因てし結組を



軍人援護朗々譜

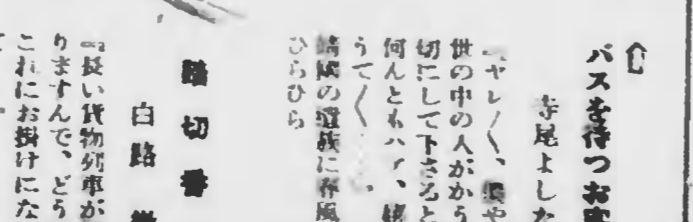
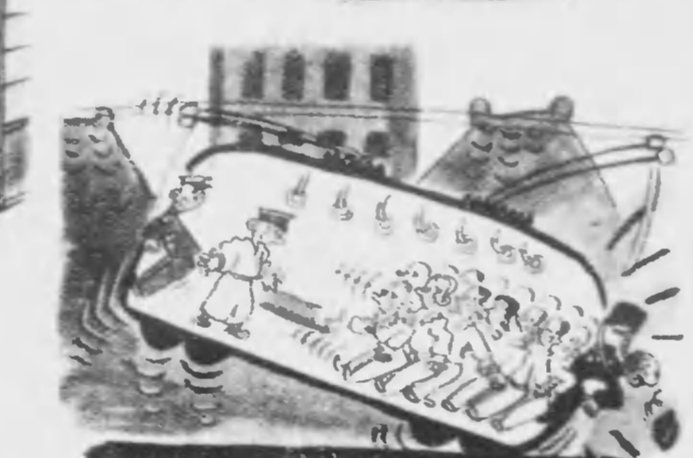
照準器

街頭寫眞

森 比呂志

諸國の遺族へ東京上野と
して街頭寫眞展さんが無
新機率仕をしました
ンだ人中で寫すのは驚
かしいで、濟まねけん
と、あんな一様に運入つ
てくれねえだか

〇 銃後の馬 津田 亮
「さあ、僕たちの馬にお乗り下さい。向うまで送
つてあげませう」



市電危く難儀

植木 敏

白衣の男上が市電に
乗つたところが

ぬかるみ

山川 哲

「兵隊さん、チャッ
ト持つて下さい」
「オ、オ、早く持つ
て来いよッ」
「アリガトウッ」

バス待つお客

寺尾よし子

「アレ、僕やア
世の中の人がかう願
切にして下さると、
何んともハ、嫌し
うて」

諸國の遺族に春風が
ひらひら

暗切番

白路 徹

「長い貨物列車が通
りますんで、どうぞ
これにお掛けになつ
て」



信室

北京における
遼都三周年式典

北支軍報報道部
撮影

〇 國民政府が遼都してから三周年記
念日の三月三十日、北京全市は各戸
に青天白日旗を掲げて懐仁堂で盛大
式典が行はれた

甲斐々々しい決戦服被褥人大会

長野縣 馬場直二郎

重大さを加へた家庭婦人の使命に感へませうと、
このほど長野市城山國民學校校庭で舉行された大日
本婦人會長野縣支部及び同縣青少年團の「大東亞戰
必勝新軍家庭婦人大會」では、日婦會員も女青團員
も、全代表が制服にモンペ、運動靴又は地下足袋の
出立ちも甲斐々々しく、會場、式終つて音楽隊を先頭
に市中大通を巡行して、戦後銃後女性の意氣を
高らかに示しました(中、下)

民映

文部省推薦映畫

望樓の決死隊

朝鮮總督府警務局長 警務局長 警務局長 警務局長
朝鮮映畫製作株式會社製作 製作 製作 製作

北鮮國境を警備する人々の生活に取
材したものである。匪賊の横行に悩む
鮮滿國境にあつて黙々として治安と警
備に血の苦闘を続ける國境警備官の大
ゆみなき誠私奉公の精神と生活、行動
の厳しさを描いたものである。本映畫
は昭和十二年頃の國境警備に取材した
ものであるが、われわれは現在でも邊
境警備に挺身する人々の勞苦と忍耐の
生活が營まれてゐることを忘れてはな
らない



★表紙

或る日、マライ、クアララ
ンブル山陸軍療養所に慰
問隊が到着しました。無聊の
キリ場に困つてゐた兵隊さん
をびつくりさせるほど悦ばせ
たのは、マライ娘とインド娘
の協働でした。お祭の日、
故郷の町をほしやき焼つた幼
友達か、妹たちのことを想ひ
出したのでせう

撮影 平山陸軍報道班員

祖國の血だ肉だ！

國債・債券は戦ふ

大東亞戰爭 國債



戰時貯蓄報國 債券

出賣 四月廿五日 四月四日

大蔵省

寫眞週報 (兼轉載) 昭和十八年四月 廿一日 印刷發行 情報局 東京市豊町區 本町一丁目一 番地 印刷局 内閣印刷局 東京市豊町區大町 一丁目	定價 一部十錢 (送料一錢) 外國郵送は依 る地域は送料 共一部十九錢	價 ▲預約配送御希望 の方は一部十錢 (送料一錢)の割 合を以て前金を 添へ御申込み下 さい ▲特大號の場合は 其の都度御申込 金より金額を申 受けます	中 全国各地官報 販賣所 書店・雜貨店 新聞販賣店 寄賣材料野店	所 内閣印刷局印刷發行
	前線慰問に本誌を お送りいたしますらば 送料を免除いたし ます。送料は内地 と同様で御申込み は開封して第一種 と明記すれば、一 錢です			